

VISUALIZE THE FUTURE



2022年3月期 第2四半期

決算説明会

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル

2021年11月10日

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。様々な要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

- 1 2022年3月期 第2四半期 決算説明**
- 2 2022年3月期 第2四半期 取り組みと成果**
- 3 2022年3月期 通期業績予想**
- 4 ロボティクス分野における先進的取り組み**

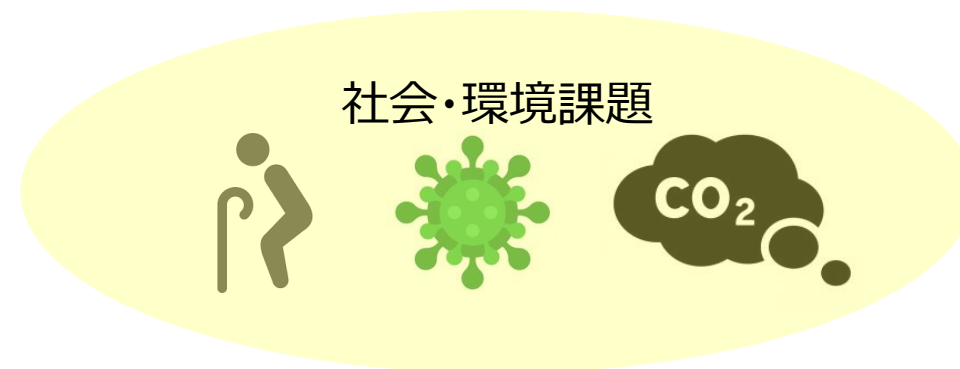
1 2022年3月期 第2四半期 決算説明

2 2022年3月期 第2四半期 取り組みと成果

3 2022年3月期 通期業績予想

4 ロボティクス分野における先進的取り組み

社会・環境の大きなトピック・課題である「少子高齢化」、「コロナ禍」、「気候変動」等の克服に社会や政界・経済界全体として取り組む機運の高まり



当社は、社会環境の変化をチャンスと捉え、社会・環境課題の解決に貢献することによって、収益/利益を獲得し、企業価値を向上させるCSV (Creating Shared Value) 経営を実現

- 創業以来の強みであるグラフィックス技術とそこから派生、涵養したAI（人工知能）・ディープラーニング技術を活用することで差異化が可能で、市場成長が期待でき、社会・環境課題解決にも貢献する、安全運転支援分野、ロボティクス分野に注力
- 市場の絶対的規模が大きいアミューズメント分野では、当社のユニークな2D・3D統合チップの優位性を発揮できる市場セグメントにおけるシェア拡大を目指す

製品事業及びプロフェッショナルサービス事業の売上増により増収、損失は改善

(単位：百万円)	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減額
売上高	533	690	+157
営業利益	△191	△ 109	+82
経常利益	△155	△ 109	+46
親会社株主に帰属 する四半期純利益	△156	△ 110	+46

- IPライセンス事業の売上高は前年同期比微増にとどまったが、製品事業及びプロフェッショナルサービス事業の増収により、売上高は29.5%の増収、営業損失は82百万円改善
- 前年同期に営業外収益に計上したNEDOプロジェクトに関わる助成金収入37百万円が剥落したものの、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失は前年度比46百万円改善

- 安全運転支援分野は、新規顧客/プロジェクト向けIPライセンス、プロフェッショナルサービスが活性化
- ロボティクス分野は、PoCを中心としたビジネス案件が増加

● 事業別売上高

IPコアライセンス事業 **67百万円** 前年同期 61百万円

- デジタル機器向けGPU IPランニングロイヤリティ、安全運転支援・ロボティクス分野向け新規IPライセンス/サポート収入、安全運転支援分野におけるリカーリング収益を計上

製品事業 **502百万円** 前年同期 383百万円

- RS1の量産向けおよびドローン向けカメラモジュールの売上等を計上

プロフェッショナルサービス事業 **120百万円** 前年同期 87百万円

- NEDO AIエッジコンテストの受託収入剥落も、安全運転支援分野、ロボティクス分野向けAI受託開発サービスが活発化

● 分野別売上高

安全運転支援分野 **45百万円** 前年同期 10百万円

- リカーリング収益を含むIPライセンス、プロフェッショナルサービスが活発化

ロボティクス分野 **106百万円** 前年同期 61百万円

- IPライセンス収入の計上に加え、AI受託開発案件が活発化

アミューズメント分野 **499百万円** 前年同期 382百万円

- RS1の量産出荷売上等を計上

その他分野 **38百万円** 前年同期 77百万円

- デジタル機器向けGPU IPランニングロイヤリティ収入等を計上したものの、前年同期に計上したNEDOからの受託収入が剥落

自己資本比率は91.5%と高水準を維持

(単位：百万円)		2021年 3月末	2021年 9月末	増減額	主な要因
	流動資産	2,736	2,690	△46	現金及び預金 △162 その他流動資産 △54 売掛金及び契約資産 +191
	固定資産	740	741	+1	投資有価証券 +41 ソフトウェア △27
資産合計		3,477	3,432	△44	
	流動負債	208	271	+63	買掛金 +79
	固定負債	18	18	+0	
負債合計		227	290	+63	
純資産合計		3,250	3,141	△108	利益剰余金 △110
負債・純資産合計		3,477	3,432	△44	

1 2022年3月期 第2四半期 決算説明

2 **2022年3月期 第2四半期 取り組みと成果**

3 2022年3月期 通期業績予想

4 ロボティクス分野における先進的取り組み

ロボティックビークル、ロボットピッキング向けのソリューション拡張、提携と成果出しが進捗

● ZIA™ポートフォリオの拡張

- ・ZIA™ MOVE: ZIA™ SLAMを包含し、自動・自律運転に必要な認知・判断・操作機能を完備したロボティックビークル向けソフトウェア
- ・ZIA™ Wire: ドローン、無人走行ロボット向けに送電線やフェンス等のワイヤーを検出するAI認識モデル
- ・ZIA™ ISP: イメージセンサーのHDR（ハイダイナミックレンジ）機能に新たに対応したイメージシグナルプロセッサ(ISP)コア

● ヤマハ発動機を始めとしたPoC、実用段階のビジネス案件が活発化

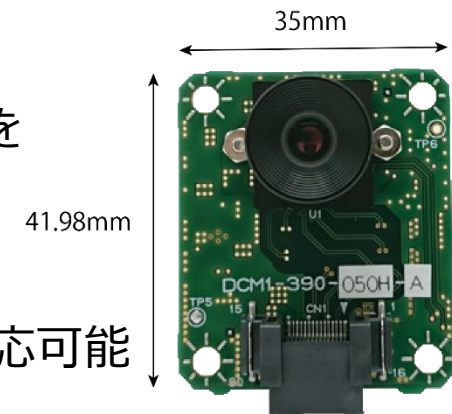
- ・ヤマハ発動機とは、フィールドテストを含めた各種製品へのAI実装で協業中
- ・フランスProphesee社のイベントベースセンサーと当社のエッジAI向けソフトウェア・ハードウェア技術を組み合わせた協業進捗
- ・その他、PoCを中心に他顧客とのビジネス案件も増加

● Cambrian社ビジョンシステムのビジネス立ち上げ

最終顧客の省人化や生産性向上の需要にミートすべく、協働ロボットメーカーやロボットSIerとの関係性を構築、深化させることにより、具体的な顧客プロジェクトにおける協業を含めビジネスが進捗

● 小型高感度単眼カメラモジュール開発

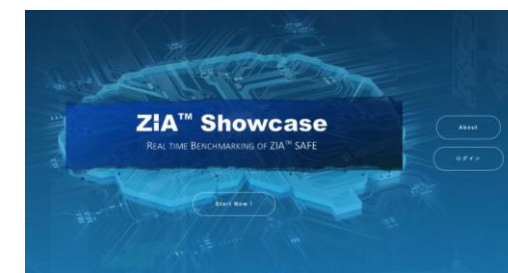
ソニー製車載用CMOSイメージセンサーIMX390を搭載し、高感度かつ高ダイナミックレンジ(HDR)に対応可能な本カメラモジュールとZIA™ ISPを組み合わせることで、120dBのハイダイナミックレンジを実現



エッジからクラウドの一気に通貫ソリューションの強みにより、新規プロジェクトを獲得

● 最新エッジAI認識モデルのデモとベンチマーク向けプラットフォーム「ZIA™ Showcase」を公開

ZIA™ ShowcaseでサポートされたADAS※1、DMS※2関連のAI認識モデルと複数のハードウェアにアクセスすることで、顧客自身のデータセットを用いた最適なAI認識モデルとハードウェアの組合せをオンライン、リアルタイムで容易に評価・検証が可能となり、製品開発の効率化に貢献
→ ZIA™ Wireを皮切りにロボティクス分野にも展開中



● 新規顧客／既存顧客新規プロジェクトに採用決定

- ・エッジ (ZIA™ SAFE) からクラウド (ZIA™ Cloud SAFE) までの一貫サポートや柔軟な課金モデルの強みを活かし、新規顧客／既存顧客新規プロジェクトに採用決定
- ・既存プロジェクトからのリカーリング収益を獲得するとともに、新規顧客や既存顧客の新規プロジェクト向けにプロフェッショナルサービスを提供

● 業務用車両の周辺監視用途にZIA™ C3モジュールの継続採用決定

前期採用量産案件の継続採用が決定

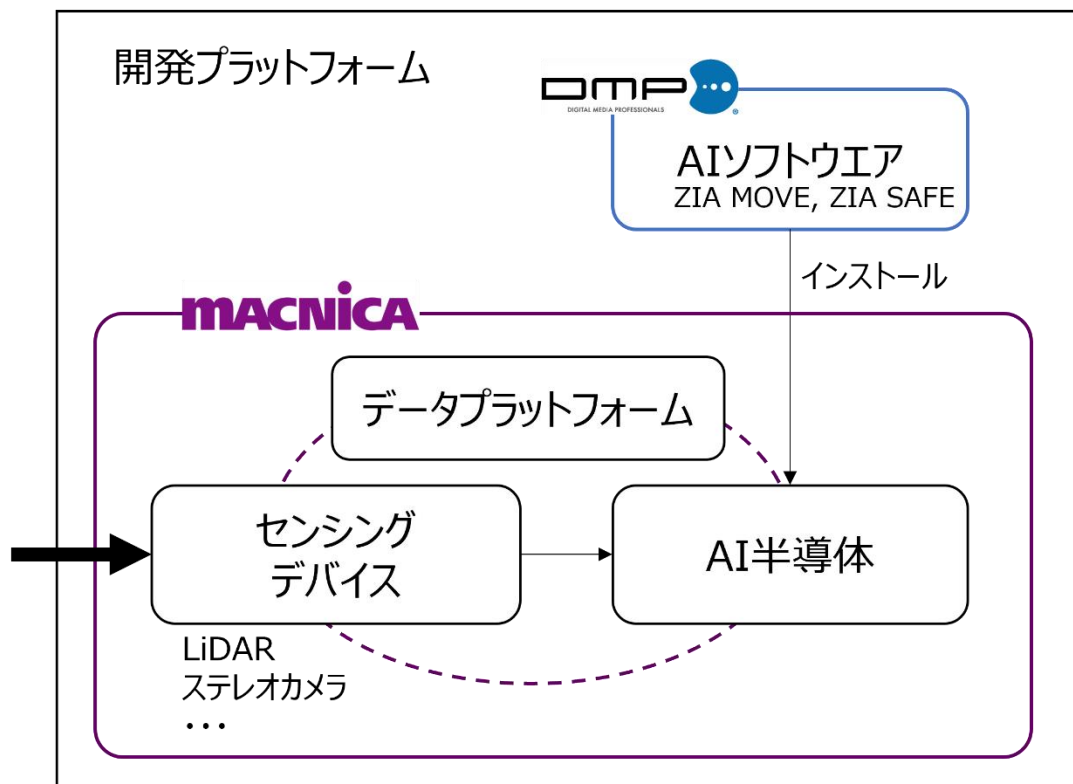


※1 : Advanced Driver Assistance Systemの略。先進運転支援システム

※2 : Driver Monitoring Systemの略。ドライバーモニタリングシステム

社会課題解決に向けて、マクニカが提供する高性能AI半導体、各種センシングデバイスとDMPが開発・提供する自動・自律運转向けソフトウェア「ZIA™ MOVE」や安全運転支援ソフトウェア「ZIA™ SAFE」を組み合わせることで、自動・自律運転や先進運転支援システム向けに垂直統合型の開発プラットフォーム環境を実現。お客様の開発プロジェクトに最適なソリューションを提供

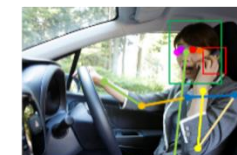
適用現場



自動自律運転



安全運転支援



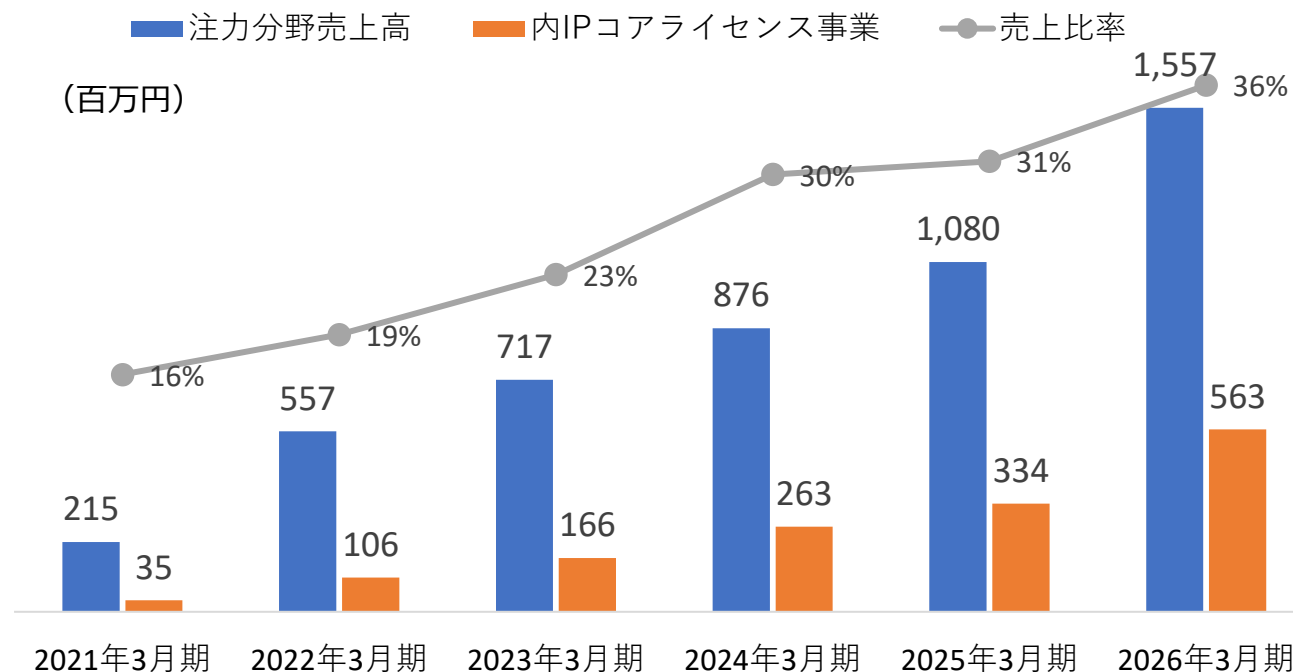
1 2022年3月期 第2四半期 決算説明

2 2022年3月期 第2四半期 取り組みと成果

3 **2022年3月期 通期業績予想**

4 ロボティクス分野における先進的取り組み

- 当社は、注力分野である**安全運転支援分野、ロボティクス分野におけるIPコアライセンス事業の売上高**をKPIと考えています。
- 顧客製品の開発ライフサイクル全体（企画～量産）に亘り付加価値を提供していく、すなわちLTV（顧客生涯価値）の最大化を図る中で、評価ライセンス・正規ライセンスの提供、そのメンテナンス、そして顧客製品出荷後のリカーリングビジネスモデル（サブスクリプション、ランニングロイヤリティ）を含み、利益率が相対的に高いIPコアライセンス事業を成長させていくことが、当該分野ひいては全体の収益・利益の中期的な成長につながります。
- 2022年3月期第2四半期注力分野実績：IPコアライセンス事業売上高 28百万円/売上比率 19% (前年同期 7/11%)



最近の業績動向や事業環境を踏まえ、2021年5月14日に公表した業績予想を上方修正

(単位：百万円)	2021年3月期 実績	2022年3月期予想	
		5月14日	11月10日
売上高	1,009	1,500	1,650
営業利益	△425	△250	△ 200
経常利益	△361	△250	△ 200
親会社株主に帰属 する当期純利益	△364	△252	△ 202

● 第3四半期以降の事業展望

- アミューズメント分野：大型受注に対応した量産出荷を継続
- 安全運転支援分野：既存・新規の主力顧客の新規プロジェクト向けIPライセンス、プロフェッショナルサービスが順調に増加
半導体供給不足に伴う顧客機器の生産減が当社ランニングロイヤリティに一定の影響を及ぼす
- ロボティクス分野：Cambrianビジョンシステムやドローン量産向けカメラモジュール等製品事業の収益は順調に拡大
PoCフェーズの需要増に対応したIPライセンス、プロフェッショナルサービスの案件が増加見込であるが、プロフェッショナルサービスの採用案件数、案件ごとの金額規模は期初想定を下回る見込
→協業を含め、案件発掘を加速させ、PoC獲得、IPライセンス供与から本格開発への関与を推進

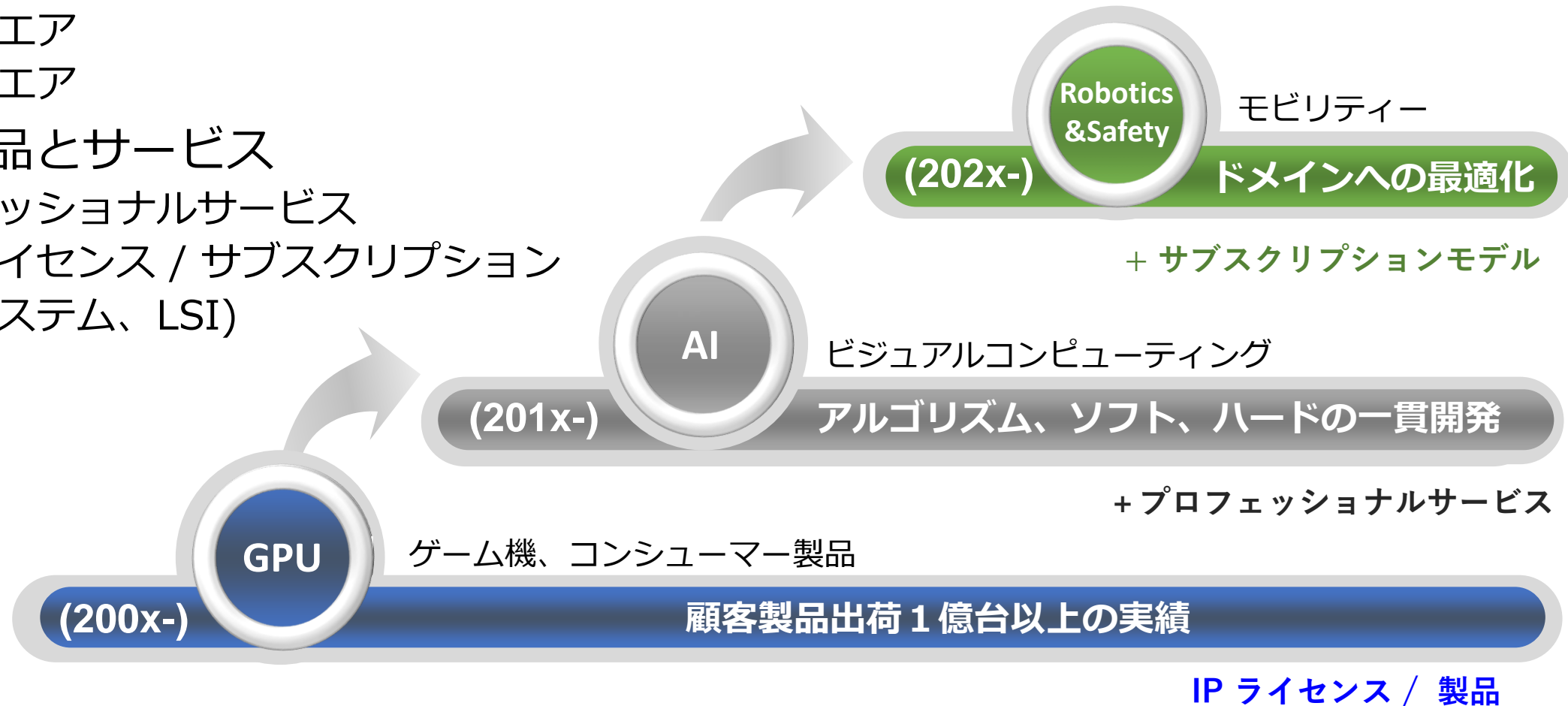
- 1 2022年3月期 第2四半期 決算説明
- 2 2022年3月期 第2四半期 取り組みと成果
- 3 2022年3月期 通期業績予想
- 4 **ロボティクス分野における先進的取り組み**

- ドメイン最適化を可能にするフルスタック開発

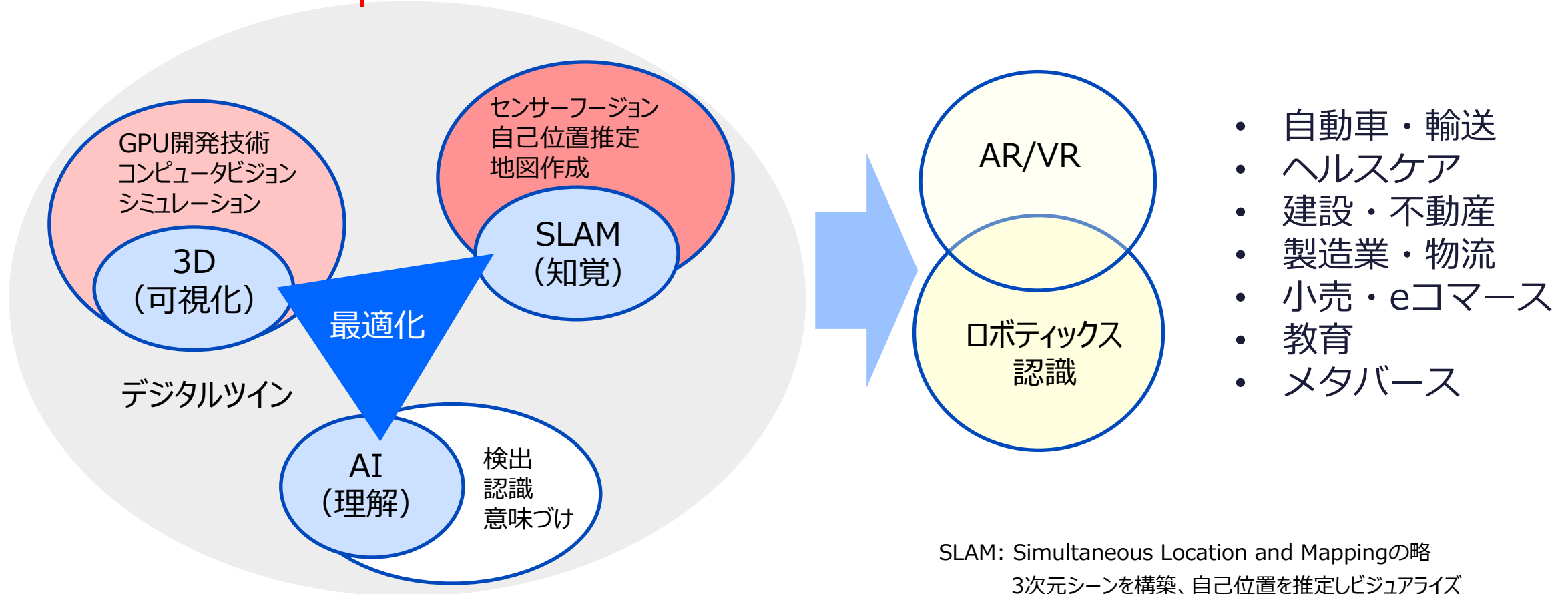
- ・ アルゴリズム
- ・ ソフトウェア
- ・ ハードウェア

- 幅広い製品とサービス

- ・ プロフェッショナルサービス
- ・ IPコアライセンス / サブスクリプション
- ・ 製品 (システム、LSI)



DMPの3D、AI、SLAM技術を融合させた高度な3D認識技術 “DMP 3D Perception”

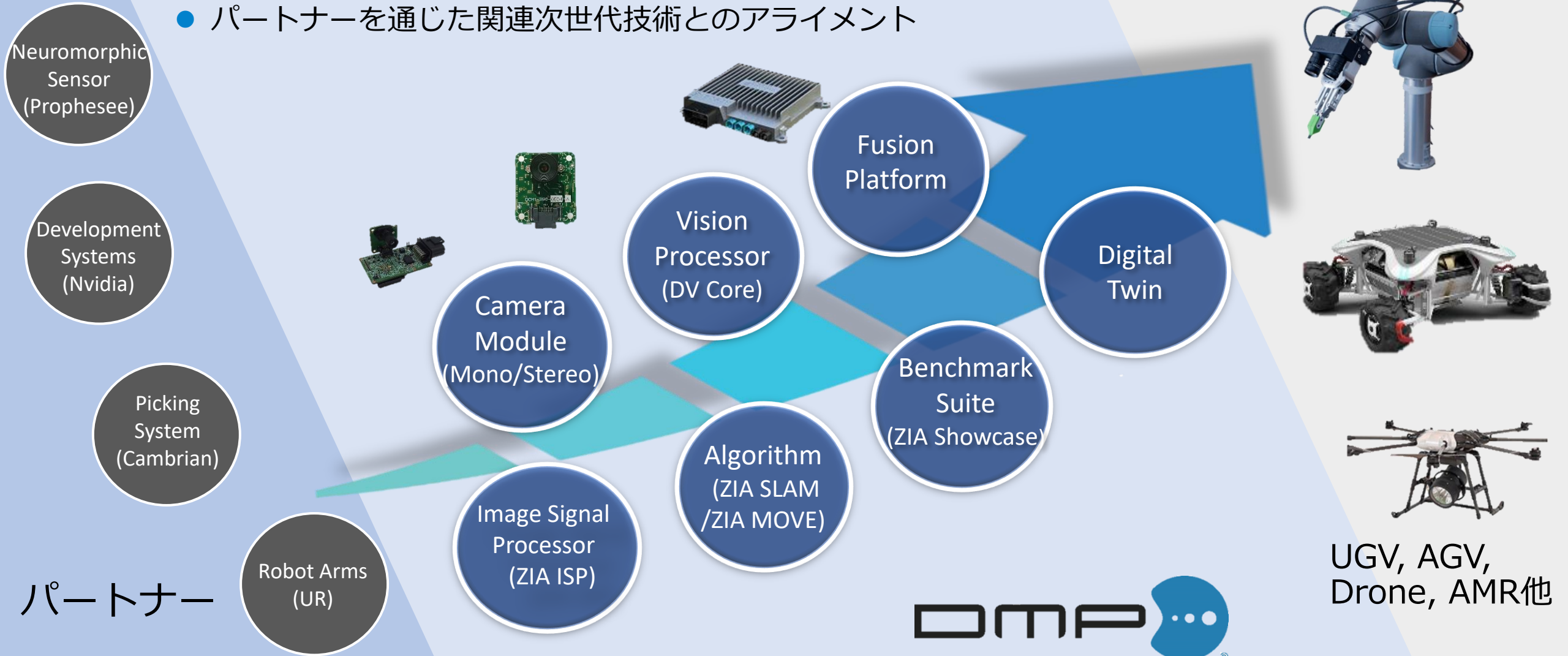


- **エッジがコンピューティング全体に占める割合が急拡大**
 - 2020年の20%から2030年には80%に※
- **画像データの爆発的増大**
 - 全てのデータの90%が過去2年で生成され、その80%が画像データ※
- **新たなセンサー開発が加速、イメージングからセンシングへ**
 - 低価格3D センサー、次世代ニューロモルフィックセンサー等
 - シーンを理解する新たな産業用ロボットが出現
- **プログラマブルな自動化ツールとしてロボットの適用分野が飛躍的に拡大**
 - マイクロプロセッサとAIの性能向上
 - マシンビジョンとの融合による精度と効率の劇的向上

※ 出典 : AI Hardware Summit 2021

DMPのロボティクスへの取り組み

- ZIA™ポートフォリオを中核とした持続可能ロボティクスエコシステム
- パートナーを通じた関連次世代技術とのアライメント



パートナー

Cambrion vision system

- UR等、各社協働ロボットのアームに装着可
- 1mmx1mm以下極小サイズのアイテムへの対応
- プラスチック、ゴム、金属材料や光沢、黒色、透明、反射表面などへの対応
- 高速200msの認識処理
- 95%超のピッキング成功率
- DMP AI機能追加が可能（例：OCR、物体認識）

用途例



ビンピッキング



ケーブル挿入



キットイング

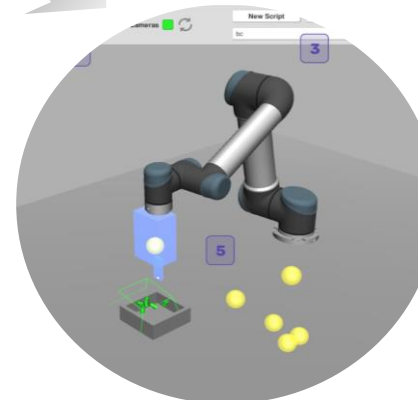
ビジョンAI ピッキングシステム

AIを使った認識と動作制御による高い汎用性

- ピッキングまでの流れ -



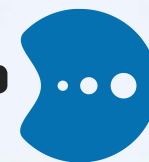
STEP1: ピッキング対象
アイテムのCADデータ準備



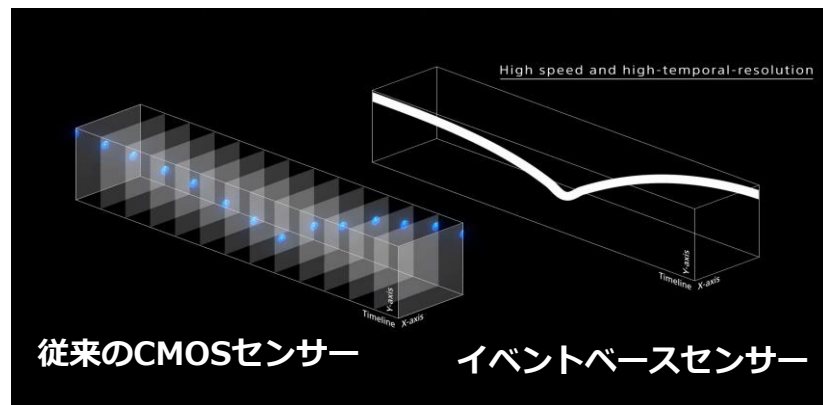
STEP2: ニューラルネットワーク
とシミュレーションによる学習



STEP3: ピッキング & プレイシング



ニューロモルフィックセンサー（イベントベースセンサー） 人間の網膜/脳の働きを模倣



従来のCMOSセンサー

イベントベースセンサー

連続的に画像全体を出力

シーンの中で動きがある部分のみ画像を出力



省データ、低消費電力、高速・高感度センシング、及び高ダイナミックレンジを実現



Prophesee センサーとDMP DV7x0 AIプロセッサを組み合わせたモジュールを共同開発中

<お問い合わせ先>

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル 経営企画部

TEL:03-6454-0450

URL: <https://www.dmprof.com/jp/ir/>

- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動することがあります。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。
- 本資料は、弊社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、弊社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。本資料に全面的に依拠した投資等の判断は差し控え願います。